

トピック — ほうれんそうの需給動向 —

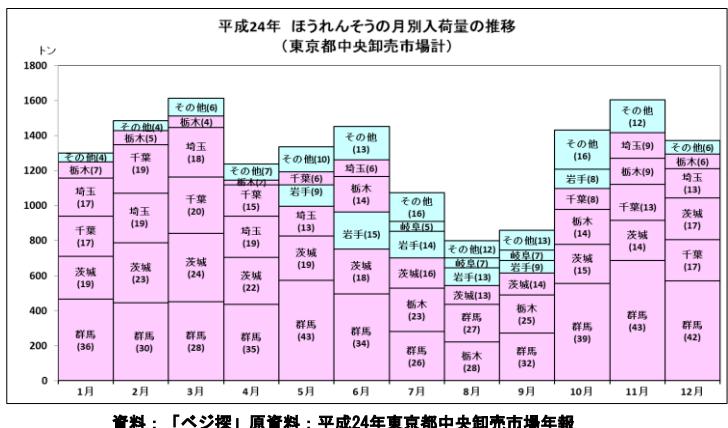
これから冷え込みが増すなかで、糖度が上がっておいしくなり、家庭の購入量が11月から3月にかけて増える葉物野菜がほうれんそうである。

ほうれんそうの1人当たり購入数量を地域別にみると、東北、北陸、などの東日本は、九州、中国、沖縄などの西日本に比べて多い傾向がみられる。また、県庁所在地でみても、秋田市、盛岡市、仙台市での購入量が多くなっており、例えば、秋田ではほうれんそうと豚肉が入った常夜鍋として、岩手では味噌汁の具やおひたしとして、身近な葉物野菜の一つとなっている。

国内の主要産地は、関東の千葉県、埼玉県、群馬県、茨城県と九州の宮崎県であり、東京中央卸売市場の入荷量をみても、年間を通して関東各県からの人荷が大半を占め、地産地消型に近い生産体制が作られている。

国内の供給量の推移をみると、大半が生鮮品である国内出荷量は最近減少傾向であるが、冷凍ほうれんそうの輸入が、国内生産の減少分を補う形で増加傾向にある。

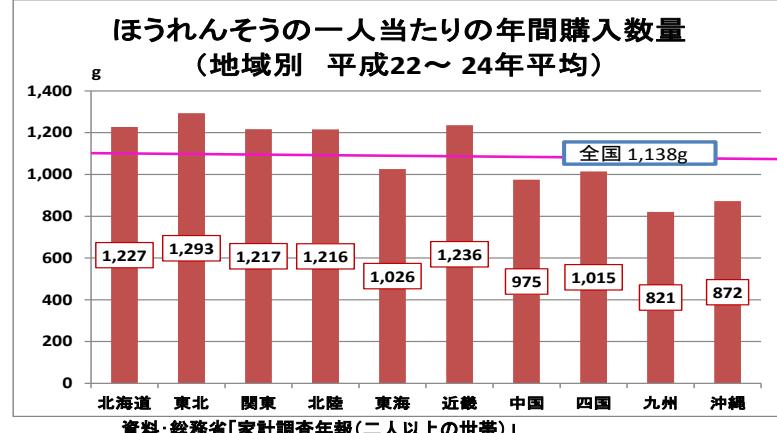
国内主要産地の一つの宮崎は、近年、冷凍ほうれんそうの出荷に力を入れているが、堅調な加工・業務用需要に対応する観点からも、旬の良さを活かした生鮮品に加えて、国産の冷凍ほうれんそう向けの生産に取り組む産地や農業者の育成が重要となっている。



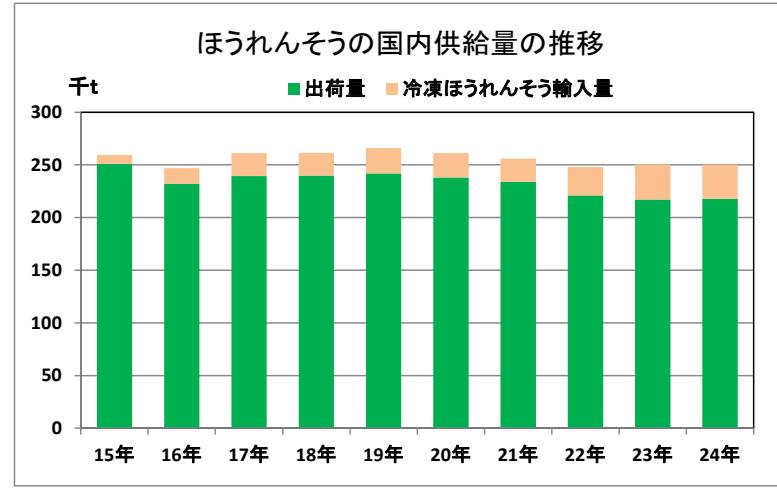
資料：「ベジ探」原資料：平成24年東京都中央卸売市場年報



資料：ベジ探（原資料）農林水産省「平成23年産 野菜生産出荷統計」



資料：総務省「家計調査年報(二人以上の世帯)」



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」、ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、斎藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。□

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。